

「見守り」の担い手としての地域事業所

—その強みと限界—

○ 明星大学 山井理恵 (会員番号 1719)

石田健太郎 (明星大学・7331)

キーワード：見守り、地域事業所、ストレングス

1. 研究目的

現在、社会的孤立に対する方策の一つとして「見守り」への注目が改めて高まっている。安心生活創造事業や全国社会福祉協議会、東京都などによる答申や報告書においては、専門機関、NPO、近隣住民のみならず、ライフライン事業者や集合住宅など生活を支える多様な事業所を「見守り」の担い手として位置づけている。このようななかで、近年地域事業所(商店や美容院など)を「見守り」の担い手とみなしている傾向が強まっている。

本研究では、見守りの担い手としての地域事業所が、いかに位置づけられているかを概観することにより、地域事業所の強みとその限界について検討する。

2. 研究の視点および方法

研究の視点：本研究では、ジェネラリスト・ソーシャルワーク、なかでも地域を「資源の宝庫」とみなすストレングス・ソーシャルワークの視座から検討を行った。

研究の方法：第一に、近年の見守りに対する事業や答申、報告書、先行研究などから、地域事業所がいかなる見守りの担い手として、いかなる位置づけや役割期待があるのかを検討する。次に、報告者が平成23年度から26年度にかけて、自治体職員ならびに地域包括支援センター職員を対象に、実施した関東圏A市の調査結果を合わせて検討する。A市では、地域事業所を見守りの一員とした「A市見守り支援ネットワーク事業」を実施している。調査の内容は①本事業に参加している地域事業所の数や職種、地域、②本事業展開時に際しての支援方法、③本事業推進に際しての強み(ストレングス)や限界である。以上の分析を通して、見守りの担い手としての地域事業所の強みと限界を明らかにする。

3. 倫理的配慮

調査では、調査対象者に調査の目的、個人情報取り扱い、学会発表や論文作成について説明し同意を得た。データ分析や報告に際しては個人情報保護のため、分析に支障のない範囲で、修正・省略した。

4. 研究結果

「見守り」をテーマとした先行研究は増加しているものの、「見守り」の担い手として、

地域事業所の特性や役割を明確に位置付けたものは、まだ限られている。そのなかで、「東京都見守りガイドブック」(東京都福祉保健局・区市町村の高齢者見守り体制充実に向けた関係者会議 2013)は、東京都内の自治体や民間の取り組みをもとに、地域事業所(本書では民間事業所)を見守りの担い手として、明確に位置付けている。本ガイドブックでは、見守りを①地域住民や友人などによる異変への気づきを目的とする「緩やかな見守り」、②定期的な安否確認を目的とする「担当による見守り」、③虐待などの困難な課題を抱えている高齢者等に対する「専門的な見守り」に分類し、地域事業所(民間事業所)を①の「高齢者等の日常生活でのささいな異変に気づくために」必要な存在と位置づけている。

また、報告者らが行った「A市見守り支援ネットワーク」においても、地域事業所が異変を発見し、地域包括支援センターや市に通報することを目的として、パンフレットや地域包括支援センターによる地域事業所への働きかけがなされている。

5. 考察

地域事業所の強みとしては、第一に、新聞販売店や宅配便など高齢者宅等へ定期的に訪問すること、スーパーや商店、銀行など日常的に地域住民が利用する機関であることから、異変に気づきやすいことがあげられる(東京都福祉保健局 2013:25)。さらに、いわゆる福祉や保健などの「専門機関」を拒否する利用者であっても、地域事業所にはアクセスしていること、また地域事業所の持つ専門性から利用者の生活状況に気づくことができること、長年の関係性からの生活背景を知っていることも強みと言える。

一方、限界としては、個人情報の問題がある。これについては、いくつかの自治体で実施されているように自治体との「協定」によって解決することができると考えられる(東京都福祉保健局 2013:26)。一方、彼らの本来業務と「見守り」との葛藤がより大きな問題と考えられる。A市調査から、新聞販売店などによる長期契約を地域包括支援センターや社会福祉協議会が解約したことによる、本事業への参加拒否、職能団体全体の登録があるにもかかわらず、実際の見守りは行わない事業所の存在が明らかになっており(Yamanoi et al:2014)、これらの葛藤を協定が解決しうるかは検討の余地がある。

6. 今後の研究課題

本研究から、見守りの担い手としての地域事業所の持つ強みと限界が明らかになった。今後は、地域事業所が見守りに参加する理由や継続する理由についてもさらに調査を行っていきたい。

*本研究は平成 23～25 年度科学研究費基盤 (C)「地域包括ケアにおけるストレングスを促進するソーシャルワークの総合的研究」(課題番号 23530769 研究代表者 明星大学教授 山井理恵)による研究成果の一部である。